

2014年(平成26年)2月5日 No.652

平成25年11月期 決算短信 概略

〔当期の経営成績〕

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による金融・経済政策を背景に、円高是正・株価回復など、緩やかな回復傾向で推移しました。海外におきましては、アメリカ経済は雇用や住宅問題の改善など回復基調であり、中国・アジア経済は成長率の鈍化はみられるものの、底堅く推移しました。

このような状況の中で、当社グループは、日米中亜の4極体制の力を結集し、真のグローバル企業を目指すべく、各国間取引の拡大、海外商品の発掘、海外サービスの充実を推し進めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は45,434百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益は2,193百万円(同5.1%減)、経常利益は2,549百万円(同2.2%増)、当期純利益は1,458百万円(同6.8%増)となりました。

〔次期の見通し〕

日本経済は、4月の消費税率アップを前に駆け込み需要が見込まれる一方、その後の反動減と5兆円超の公的経済対策効果による底堅い景気の継続を見込んでおります。米国経済は持ち直しており、中国経済は減速傾向にあるものの堅調であり、東南アジア諸国経済は、タイの政情不安やインドネシアの通貨安といった不安材料はあるものの投資は拡大すると予想しております。

このような状況下、産業機械部門では海外商品の発掘、輸入、海外拠点間・域内の取引拡大、海外サービスの拡充を図ります。建設機械部門では、主力商品のクレーンの拡販とレンタル事業の拡大を図るとともに、新商品及び中古建設機械の輸出先・販路の拡大と海外レンタル等海外事業の展開を図ってまいります。

これらにより、次期の連結業績予想につきましては、売上高50,000百万円、営業利益2,400百万円、経常利益2,600百万円、当期純利益1,500百万円を見込んでおります。

<業績の推移>

(%表示は対前期増減率)

	連結経営成績			
	平成25年11月期		平成24年11月期	
売上高	45,434百万円	8.3%	41,968百万円	29.4%
営業利益	2,193百万円	△5.1%	2,311百万円	119.0%
経常利益	2,549百万円	2.2%	2,495百万円	102.9%
当期純利益	1,458百万円	6.8%	1,366百万円	101.1%
一株当たり 当期純利益	160円88銭		150円69銭	
一株当たり純資産	1,697円81銭		1,486円38銭	

今月のことば

乾 相談役

○ 一年の計は元旦にあり

新しい年を迎えた。決意も新たに今年も頑張ろう。昔から一年の計は元旦にありと言われている。物事は最初が肝心である。新年を迎え今年も1年の計画をたて、実行する決意を持つことが大切である。計画や目標では、会社から自分に与えられた仕事上の課題を達成することは当然であり責任である。もう一つとして自分の自己成長、趣味教養のために目標として切磋琢磨せねばならないものもある。自分の好きなことは進んで実行するが、苦手を克服することにはなかなか手を付けられない。目標はしっかりと立てる。立てた目標は必ず達成する、という意欲を持とう。常に高い目標に挑戦し達成していくこと、自分自身が成長していくことを年の初めにあたり、しっかりと認識しよう。

○ 聞く耳を持つ

語る愚者、聞く賢者とされている。人の意見はしっかりと聞くことで自分自身が磨かれる。過信している人は、聞く耳を持たない人が多い。真剣に人の言うことを良く聞くことによって、妙案が出たり判断が広がり柔軟性が出て来る。それによって、より良い案が出るし必ず自分自身の成長の糧になる。意地で自分の意見にこだわるのは最低である。聞くと同様に発言することも重要であり、ミーティングで忌憚のない自分の意見を述べ、他人の意見を良く聞くことによって意思疎通ができ良きコミュニケーションができる。激しく議論を闘わせても、一旦結論が出ればそれを必ず実行することが基本であり、計画と行動を一致させることが大事である。

それによって、一致した行動がいち早く実行することを可能にする。計画は形式的にだけ出来上がっているのではなく、実際に実行するかがポイントである。やらされているではなく、自分の役目として達成に向かって邁進する。責任ある仕事をするには、積極的な発言と聞く耳を持つことから始まる。

○ MSCとは

MSCは「粗利益」「口銭」と同義の言葉である。口銭という言葉や感覚が好きでないところから、「マーケティング アンド システム コスト」の頭文字をとって、MSCと創業者の田中嘉助社長が名付けた。商品を右から左へ販売して利益を得るのが口銭と言われている。我々の取引は単にハードを販売するだけでなくソフトも提供してユーザーに貢献することを基本戦略としている。MSCという発想から考えると、販売に要する経費は仕入原価と考えるべきである。売買利益から経費を差し引いたものが営業利益である。過去に比べて情報やソフト面のウエイトが高くなってきている。MSCの原点に戻り、付加価値の高い提案型セールスが勝敗の決めてとなっている。メイン商品とともに周辺機器の販売、アフターサービス、部品の供給、海外の商品状況等、情報の提供でユーザーに貢献できなければ、当社の機能が低下し、存在価値がなくなる。世の中に必要なものは繁栄し、不必要なものは衰退する。機能を向上させるとともに、コスト意識を厳格に持とう。コスト意識の弱い企業は発展は望めない。MSCの語源を再認識して成長発展しよう。

MM会に1社が新規加入しました

新会員に1社が加わり19社になりました。ますます皆様の幅広いニーズにお応えします。
なんなりとお声をお掛けください。

新会員の
紹介

ナストーア溶接テクノロジー(株) (東京都中央区京橋)
溶接・抵抗溶接・溶接機・トランス



マルカキカイ株式会社 冷温システム部は下記に 移転しました。

移転先

〒566-0062
大阪府摂津市鳥飼上4丁目7-46
TEL 072-665-4611
FAX 072-665-4613

社内誌「マルカニュース」は、株主様や、取引先様にも当社ホームページ
(<http://www.maruka.co.jp/>)からも閲覧頂ける様になりました。



アジア NOW 2014年 2月

		タイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	台湾	上海	備考
GDP成長率 (%)	2013年	3.7%	5.9%	4.6%	6.9%	1.74%	7.6%	推定値
	2014年	4.5%	6.2%	5.1%	6.5%	2.59%	7.3%	予測値
物価上昇率 (%)	2013年	2.3%	7.3%	3.5%	3.2%	0.8%	2.7%	推定値
	2014年	2.8%	6.7%	3.5%	4.5%	1.0%	3.1%	予測値
為替相場 (対米ドル)	13/11/10	B32.12	PR11,385	M\$3.33	P43.200	NT\$29.48	RMB6.057	1\$=96.89円
	13/12/10	B32.07	PR11,600	M\$3.33	P43.150	NT\$29.64	RMB6.077	1\$=103.36円
	14/1/10	B32.98	PR12,235	M\$3.33	P44.680	NT\$30.21	RMB6.051	1\$=104.95円
	今後の傾向	↘	↘	→	→	→	↗	
短期金利		2.50%	7.5%	6.25%	1.99%	4.10%	5.60%	
	今後の傾向	↘	→	→	↗	→	↗	
失業率		0.60%	5.9%	3.1%	6.2%	4.16%	4.50%	

マルカ駐在員からのコメント

タイ政府は、1月22日から60日間、バンコク及びノンタブリ県全域と一部隣接県に対して非常事態宣言を発令した。

現在、5名以上の集会を禁止する指示が出ているが、まだ外出禁止、報道規制、政府による道路封鎖、建物への進入禁止、住民への避難勧告などはまだ発表されていない。しかし、今後の状況には注意を払う必要がある。

バンコクでは、選挙阻止のため連日、主要交差点がデモ隊により封鎖され、交通渋滞などが発生しており、反対派と見られる発砲、爆弾事件などもあり、不穏な雰囲気になってきている。

ルピア安や経済の停滞で今年のインドネシアの自動車市場は停滞するとの見方が強まっている。

インドネシアはまだまだ素材や部品を輸入に頼らざるを得ず、ルピア安による車両価格の値上げが販売にブレーキをかけている。さらにインドネシア中央銀行はインフレとルピア安を抑えるために政策金利を昨年だけで1.75%引き上げている。これがローンによる購入層にとっては打撃となっている。

ただし、MPV(多目的車)や低価格小型車など、今後も高い成長率が見込まれる分野でのシェア争いは激しさを増しそうだ。

マレーシア自動車協会(MAA)によると、2013年通年の自動車販売台数は65万5,793台だった。60万台超は4年連続で、堅調な経済成長や労働市場を背景に過去最高を更新した。

メーカー別で販売トップはダイハツ系の国産車メーカー、プルサハアン・オートモビル・クドゥア(プロダック)、2位はプロトン・ホールディングス、3位以下はトヨタ、日産、ホンダ、三菱自動車と日本勢が続いた。プロダック、日産、ホンダ、三菱自動車、インコム、いすゞ、マツダなどの販売台数が増加した一方、プロトン、トヨタ、フォルクスワーゲンなどの販売台数が減少した。

フィリピン自動車工業会と自動車輸入・流通業者連合によると、2013年の新車販売総数は前年比14.9%増の21万2,683台であり、過去初めて年間20万台を記録した。2014年は23万台超を目指す。

メーカー別ではトヨタ・モーター・フィリピンが15.6%増の7万5,161台で過去最高を更新した。三菱モーターズ・フィリピンズは27.3%増の4万3,176台でトヨタと同様に過去最高を記録した。一方、現代自動車は0.2%増の2万2,033台とほぼ横ばい。ホンダ・カーズ・フィリピン、フォード・モーター・フィリピン、いすゞフィリピンズの3社が1万台を突破した。

経済部国際貿易局は、財政部が2014年1月7日に発表した税関の貿易輸出入データに基づき、2013年通年の貿易統計を発表した。それによると台湾の輸出総額は3,032億2,000万米ドル、輸入は2,700億7,000万米ドルだった。2013年の貿易総額は、5,732億9,000万米ドルで、通年の貿易収支は331億4,000万米ドルの輸出超過となった。

また、輸出品目別では、台湾の主力輸出品は依然として電子製品が859億8,000万米ドルで最も多いという結果であった。

中国国内企業の前年平均賃上げ率は前々年比9.3%となる見通しとなった。

前年の時期別の平均賃上げ率は1~3月が8.3%、4~6月が12.3%、7~9月が10.4%であり、業界別では、総合サービス、ハイテク、メディアの賃上げ率が高く、いずれも10%超となった。一方、労働集約型産業は低水準の引き上げに留まった。

都市別の7~9月の賃上げ率は、北京市が9.7%、上海市が10.3%、広州市が10.6%。天津市は10.7%、四川省成都市は11.8%、重慶市は10.6%となり、地方都市の伸び幅が1級都市を上回った。

アナリスト・機関投資家向け 決算説明会



2014年1月22日(水)午前10時30分より東京都中央区日本橋(株)日本投資環境研究所会議室)の会場において、当社2013年11月期決算説明会を開催いたしました。

約40名の機関投資家、アナリストの方々にご出席をいただき、約1時間にわたり竹下社長から決算の概要と新年度の見通しについて説明をいたしました。また、1月14日に2014年度を初年度とする3か年の中期経営計画を発表しており、決算内容と合わせて中期経営計画の内容についても説明をいたしました。

2013年11月期決算は、円安の効果もあり増収となり、中期経営計画においては、3年後の2016年度は当社創立70周年を迎え、安定した収益をあげられる新事業を構築し、2014年度の連結売上高を500億円、2016年度を650億円とする目標に向かって飛躍していくことも発表いたしました。

今後も株主、投資家の方に、もっと当社の内容をご理解いただけるように、きめ細かなわかりやすいIR活動に努めてまいります。

Smart Community in Indonesia 2013

2013年12月19～22日、インドネシア・日本の国交樹立55周年を記念した「インドネシアー日本EXPO2013」産業交流展がジャカルタで開催され、マルカインドネシア社が参加致しました。

各メーカー殿よりの協賛支援を頂き、東洋機械金属製電動サーボ射出成形機、コマツ産機製サーボプレス、不二越製ロボット、ナストーア製スポット溶接機、千代田工業製CNCパイプベンダー、大鋳インドネシア製ショットブラストを実演展示し、ユーテックインドネシア製リークテスター/自動機のパネル展示を致しました。

機械などの最新技術だけでなく、食・ファッション・文化なども含め広く日本を紹介し友好を図るとの開催趣旨にのっとり、幅広い層の来場者で賑わった展示会であり(4日間の来場者合計は約3万人)マルカ及び各メーカーは、日本を代表する高技術機械ブランドとしてのアピールをすることができました。



展示会開催の様子がジャカルタの日本人向け日刊紙で紹介され、掲載された写真にマルカブースが写りました

今後、展示会中に頂いた引合いの受注活動、更なる拡販はもちろんのこと、機械販売とサービスを通じてインドネシア製造業の高技術化発展への更なる貢献を目指し活動していきたいと存じます。

中期経営計画に関するお知らせ

当社は、2014年度から2016年度を対象とした中期経営計画を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

1. 中期経営計画の基本方針

①基本方針

2013年度の当社連結売上高は454億円、営業利益は21.9億円、経常利益は25.4億円と、2008年度の連結売上高の水準まで回復をしております。いわゆるリーマンショック後の当社グループを取り巻く厳しい環境から脱し、海外市場を中心に次第に業績は回復をし、今後新たなステージに向かって、業績の安定的成長が重要課題となっております。

当社は、2016年12月に創立70周年を迎えます。1946年に創立し、「人生是誠也」を経営の理念として、「顧客の満足」を経営の基本として、早くから海外に目を向けた事業の展開を推し進めてまいりました。輝かしい創立70周年を迎えるため、「グローバルビジネス」から「ローカライゼーション(経営の現地化)」、「システム営業」から「ソリ

ューションビジネス」への転換を図り、安定的収益を確保できる事業の構築と、強固な経営基盤に取り組んでまいります。

②経営計画のテーマ

そこで、2016年度までの3年間につきましては、事業環境の変化にも対応できるよう、その先にある新たなステージに向かって、安定収益が見込まれる新事業の構築に取り組んでまいります。

○中期経営計画のテーマ

『日米中亜4極体制 新たなステージへ

For the Next Stage』

数値目標は、2016年度に連結売上高650億円、営業利益35億円を目指します。

2. 中期経営計画数値目標(連結)

中期経営計画における数値目標は次の通りです。

(1) 連結売上高・営業利益・経常利益

(単位:百万円)

	2013年度実績	2014年度予想	2015年度予想	2016年度予想
売上高	45,434	50,000	56,000	65,000
営業利益	2,193	2,400	2,800	3,500
経常利益	2,549	2,600	3,000	3,800

(2) セグメント別売上計画

(単位:百万円)

	2013年度実績	2014年度予想	2015年度予想	2016年度予想
産業機械	31,938	35,100	39,000	44,925
グローバル機材	6,296	6,400	8,000	10,000
建設機械	7,147	8,440	8,935	10,000
その他	54	60	65	75

注)グローバル機材の数値は、従来産業機械に含まれる。

(3) 地域別売上計画(海外売上高)

(単位:百万円)

	2013年度実績	2014年度予想	2015年度予想	2016年度予想
日本	18,039	19,800	20,800	22,500
米州	12,616	12,000	13,700	16,140
中国	4,065	5,000	5,600	6,470
東南アジア	10,715	13,200	15,900	19,890
海外比率	60%	60%	63%	65%

注)米州は、北米およびメキシコ。東南アジアはインドを含む。

マルカキカイ・シンガポール事務所開設



当社は、2013年10月1日付けにて、シンガポールに、駐在員事務所(MARUKA MACHINERY SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE)を開設いたしました。

シンガポールは、淡路島ほどの大きさに、約560万人の人口を持つ、東南アジアのハブであると共に、建設機械の「ショーウィンドー」とも言われ、世界中の建設機械、建設工法が稼働しており、活気に満ちています。

近年は、SMAPのテレビコマーシャルでも有名になったマリーナベイをはじめとし、日本人のみならず世界からの観光客でにぎわっています。

当社は、この建設機械の需要の中心地に拠点を持つことにより、シンガポール大手レンタルユーザーへの関係強化のみならず、東南アジア周辺諸国へのアクセスの強化と、ユーザーニーズの把握に努めてまいります。

グローバル時代に即し、シンガポール事務所長には、建設機械業界に精通し、日本企業での勤務経験もあるシン

ガポール人のMr. Foo Jeong Forkを起用いたしました。

事務所は、建設機械のみならず、近い将来の産業機械分野での活動も視野にいれ、機動性と即効性を生かせるよう、シンガポール・チャンギ空港から車で約10分という立地となっています。

どうぞ、マルカキカイ・シンガポール事務所にご期待ください。

Maruka Machinery Singapore Representative Office
事務所長:Mr. Foo Jeong Fork

住所:

300, Tampines Avenue 5, #09-02;

Regus Tampines Junction;

Singapore 529653;

Office Telephone : +65-6679-5600

Office Facsimile Number: +65-66795601

Mobile :+65-93375811

取扱商品

ナストーア溶接テクノロジー株式会社

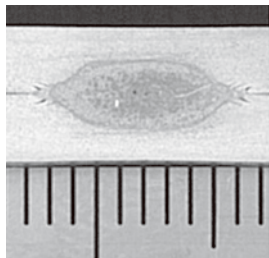
インバータ式 コンデンサ溶接機 (メサコン)

- 溶接電流と通電時間は直接設定
- 設備容量は単相交流溶接機の1/10
- 熱変形の少ないきれいな溶接仕上げ
- 軟鋼・ハイテン材・アルミの溶接に最適

特許取得 第3667428号

特長

溶接例



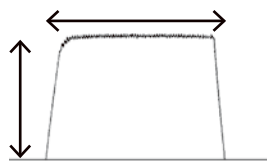
アルミ A5052
板厚 3.0mm



電流の再現性

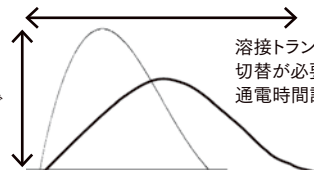
通電時間は1msec単位で直接設定

溶接電流は100A単位で直接設定
定電流制御で再現性が優秀



メサコンの溶接電流波形

充電電圧の調整で溶接電流を決定
再現性が劣る



従来の溶接電流波形

溶接トランスのタップ切替が必要。2通りの通電時間設定のみ

仕様

形式	POCI-2000	
入力電源	3φ 200V	
入力容量	kVA	24
最大出力電流 A/ 通電時間 msec	200,000/30	
通電時間設定	msec	1~100
最大溶接回数	回/min	12
加圧力	kN	49.0
加圧ストローク	mm	120
ふとところ (開き×深さ)	mm	200/300
プラテン (上部/下部)	mm	300□/300□
機体形態	門型	

制御装置

形式	CIT-2027-4 (2台)※	
最大エネルギー	kJ (Ws×10 ³)	58.8

スポット溶接能力 (板厚の目安)

アルミ合金	4.0
軟鋼 (磨き)	-

※CIT-2027-4の他にコンデンサBox・トランスBoxがセットとなります。

お問い合わせは

マルカキカイ株式会社

本社・支店の産業機械部へ